

## 編集後記

国内外の情勢は目を追うてきびしくなり、戦後の教育や文化の危機は重大な段階にさしかかっています。

このような中で、大学のあり方、学問のあり方が否応なしにあらためて問いなおされざるを得ないところへ追いこまれています。国文学研究の方向もまた研究者自身の主体がつき当っているさまざま矛盾や葛藤をどう克服するかという今日的な問題意識と無縁であり得ないことは自明でありましょう。しかしその分りきったことをくり返しくり返しはつきりさせようとしない限り、ともすれば特殊な専門のわくの中へ自分をとじこめてしまう危険があります。

本誌もいよいよ三号を迎えました。創刊号につづいて卒業論文(代田氏)を掲載することができたのはうれしいことです。安永論文はまだまだつぎさうですが、新旧長短おりませて好論文をどしどしらせて行きたいものです。例によって発行期日がおくれたことを深くおわびします。編集者が悲鳴をあげるほどの寄稿の殺到を期待します。

(里井)

### 同志社国文学 第三号

昭和四十三年三月一日 印刷  
昭和四十三年三月五日 発行

編集者 同志社大学国文学会  
代表 表 土 橋 寛

京都市上京区烏丸今出川  
発行所 同志社大学国文学会  
振替 京都二七三七

京都市南区吉祥院池ノ内町一〇  
印刷所 明文舎印刷株式会社